

立憲民主党
The Constitutional
Democratic Party of Japan

公認候補

黙さず、
闘う。

第三奇兵隊

ジャーナリスト

有田芳生

ありたよしふ

衆議院議員候補
山口県 4区



父

の光雄は島根の出身、母の和子は鳥取の出身です。鳥取農林専門学校（いまの鳥取大学）を卒業した母は、日本で初めて女性獣医の資格を取りましたが、卒業後は下関の保健所で働いていました。一九五〇年に朝鮮戦争が起こり、レッドバードで公職を追われた父は、母を追って下関にやってくると、大林組の日雇い労働者（鉄筋かつぎ）や米屋の配達夫として働きます。二人は一九五〇年十一月にいまの長門市で結婚しました。この地は私にとって人生の原点なのです。



黙さず、闘う。

保守王国のこの地で闘いに挑むのは無謀だという人もいます。本当にそうでしょうか。作家の司馬遼太郎さんは、山口県について、自然のまろやかさ、温和な気候、県民の言葉遣いや礼儀の品のよさ、そして武家の気品が地熱のように残っている土地だと評しています。たとえば、再生可能エネルギーの分野では、バイオマス発電では全国二位であり、地域の雇用も生み出しています。またペットとの共生社会は山口県で加速していると評価されています。犬、猫の殺処分率は、二〇二〇年度までの八年間で大幅に改善され、今や全国一位です。有田芳生とともに、こうした山口の先進性をより前に進めていきましょう。人口流出に苦しむ地方の閉塞を打ち破る新たな政治は、ここ山口から始まります。派閥政治、世襲政治、そして統一教会に汚染された政治と決別し、新しい日本をともに作っていきましょう。高杉晋作が詠んだように「おもしろきこともなき世をおもしろく」と呼びかけたい。その力がこの地にはあると信じています。

霊

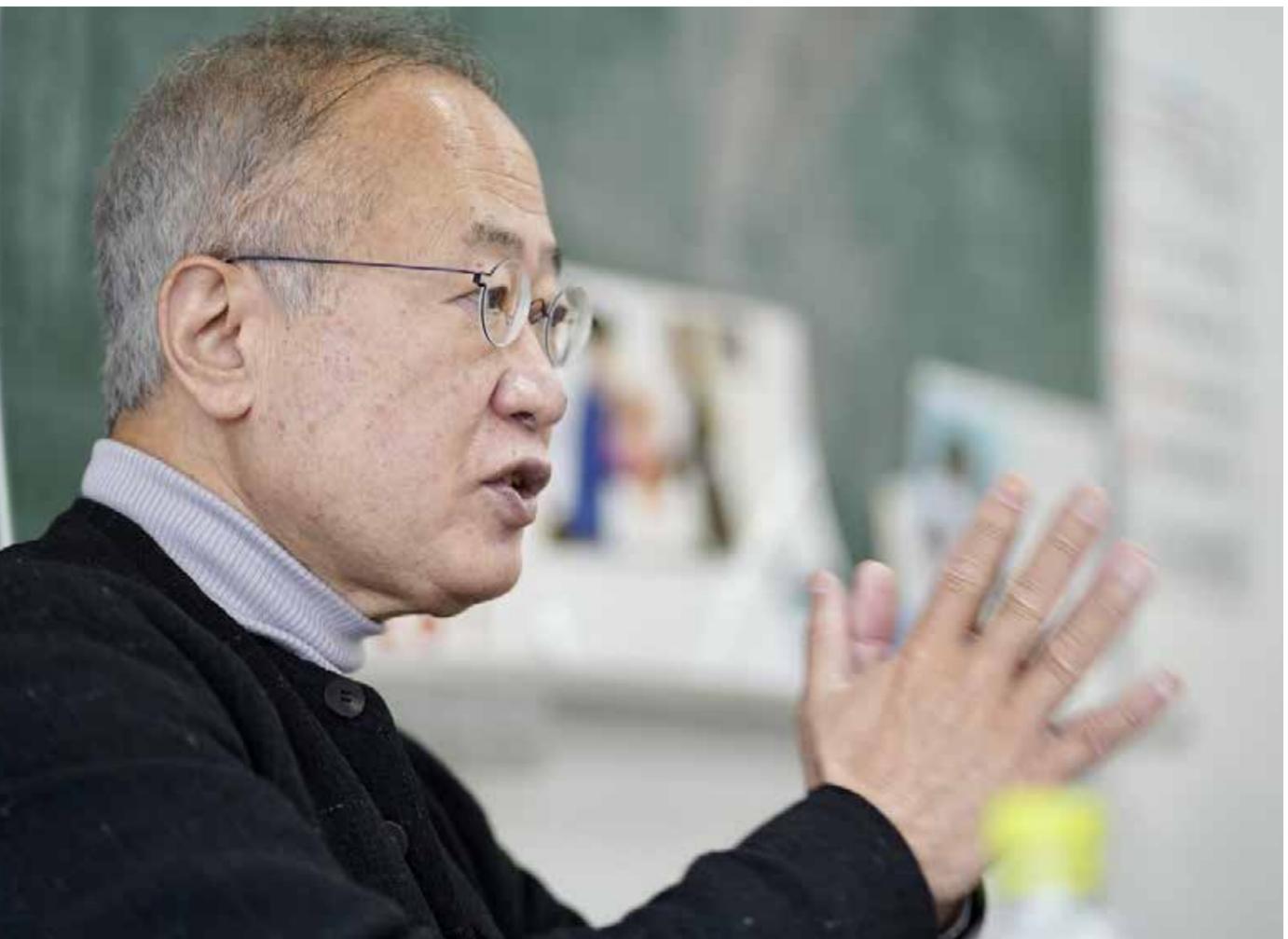
感商法などの反社会的行為を信者たちが行い、日本を「サタン側の国家」とする極端な韓国ナシヨナリズムにもとづく統一教会の影響が、日本政治に深い影を落としていることが明らかになりました。

日本の保守政治が、選挙支援と引き換えに、統一教会の影響を受けざるえない状況にあるのは歴史の事実です。保守政治を支えてきた良識ある山口の有権者の方々も、大きな疑問と不安を感じていらっしやるのではないでしうか。安倍元総理の後継を選ぶこの選挙で、山口県をはじめ日本の政治が、統一教会による汚染から脱却することができるとのか。今回の大きな争点のひとつです。



ア

ベノミクスを冷静に、そして誠実に検証し評価することです。その検証を通じてこそ、物価高に無策であるどころか、根拠の乏しいまま唐突に防衛費増税に邁進する岸田政権とは違う、国民の生活を豊かにする経済を実現することができます。いまから十年前の二〇一三年、安倍元総理は「十年後に所得は一五〇万円アップする」と語りました。私たちの暮らしはそうなっていないません。それどころか日本は先進七カ国のなかで平均賃金が唯一下がっています。この十年の政策への反省なしに、国民生活を豊かにする政治は望めません。少子高齢化や人口流出による地方の衰退も、いまや全国共通の課題です。



拉致問題の解決

私

のライフワークでもある北朝鮮による拉致問題などの外交課題です。安倍総理は拉致問題の解

決を内閣の「最重要課題」と位置付けてきました。菅政権も岸田政権も同じです。二〇〇二年九月十七日の小泉訪朝をきっかけに五人の被害者が日本に戻る事ができました。あれか二十一年。政治的リアリズムに基づいた「一人からでも取り戻す」という執念のもと、北朝鮮が二〇一四年に日本側に通告して来た政府

認定拉致被害者、田中実さんの安否確認、本人への接触から外交をこじ開けなければなりません。

